刑法総論Ⅰ

科目ナンバリング　CRL-101
必修　　2単位

堀田　晶子

1. 授業の概要（ねらい）

刑法は、犯罪と刑罰に関するルールです。1年次に学修する刑法総論では、すべての犯罪に共通する要素（犯罪の成立要件）を分析し、「およそ犯罪とは何か」を考えます。一見、抽象的に見える犯罪論も、具体的な事例を用いてイメージすることで、確かな理解へと繋がります。1年間を通じて、刑法総論の主要な論点と向き合い、法解釈の技術を学ぶとともに、犯罪論を体系的に理解する法的思考力を身につけます。

2. 授業の到達目標

①刑法総論の主要な論点について、判例の立場や学説の対立を意識しながら、具体的に説明できること。
②法解釈の技術を学び、犯罪論を体系的に理解する法的思考力を身につけること。

3. 成績評価の方法および基準

基本的には試験によって評価する。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%である。授業への貢献度は、勉学への意欲や授業態度等によって総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

教科書
以下の教科書をお勧めします。本には相性があるので、この中から自分が読みやすいと思ったものを選んでください。
大塚裕史　十河太朗他［著］　『基本刑法Ⅰ・総論』〔第3版〕（2019）　日本評論社
西田典之〔著〕・橋爪隆〔補訂〕　『刑法総論』〔第3版〕（2019）　弘文堂
井田良［著］　『講義刑法学・総論』〔第2版〕（2018）　有斐閣
参考文献
佐伯仁志・橋爪隆［編］　『刑法判例百選』［第8版］（2020）　有斐閣
井田良［著］　『基礎から学ぶ刑事法』〔第6版〕（2017）　有斐閣

5. 準備学修の内容

特に復習に力を入れてください。毎回の授業で扱ったテーマについて、関連する条文を必ず確認し、レジュメやノートを読み返しながら、復習しましょう。勉強すればするほど疑問がわいてきます。疑問点が出てきたら、テキストを繰り返し読みながら、まずは自分で考えてみましょう。図書館を大いに活用し、時には友人と議論してみてください。それでもわからない場合は、教員に質問してください。

6. その他履修上の注意事項

授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて、理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに確認してください。

7. 授業内容

【第1回】　オリエンテーション―刑法総論とは何か―
【第2回】　罪刑法定主義その1
【第3回】　罪刑法定主義その2
【第4回】　犯罪とは何か―犯罪の3要素・犯罪の認定手順―
【第5回】　構成要件とは何か
【第6回】　客観的構成要件その1
【第7回】　客観的構成要件その2
【第8回】　主観的構成要件
【第9回】　錯誤論その1～具体的事実の錯誤～
【第10回】　錯誤論その2～抽象的事実の錯誤～
【第11回】　前半のまとめ
【第12回】　不作為犯
【第13回】　過失犯
【第14回】　刑罰の正当化根拠
【第15回】　春期のまとめと試験（予定）